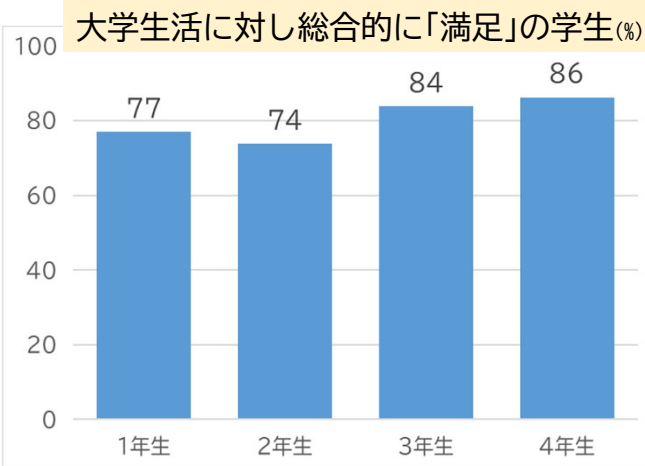


大学生生活の満足度74～86% 遠隔授業も改善に努めます

本学（IR推進室）では、年に1回「**学生の学修実態に関する調査**」を実施しています。この調査では、学生の自宅における学修時間や睡眠時間など学修生活の実態を把握するとともに、学修環境に対する満足度を把握することで、学修支援の改善につなげることを目的にしています。昨年度は学修管理システム（WebClass）の導入に加えて調査項目を統一したことにより、全学部で一斉調査が可能になりました。



この調査では、「大学生活の総合的な満足度」をお伺いしています。そこではグラフのように学年別に違いはありますが、74～86%の学生が「満足（「やや満足」を含む、以下同じ）」と回答しています。専攻別では、各学部看護学科が75～91%、医療保健学部医療栄養学科が71～81%、同医療情報学科が69～84%と概ね7～9割の満足度となりました。

自由記述では、例年は自習環境の充実などの意見が寄せられます。今回は遠隔授業に関する意見が多数を占めました。対面授業と遠隔授業のバランスについては、**対面を多く望む声と、逆に遠隔を重視する声と双方の意見**がみられました。学生ごとに家庭環境や通学時間が異なることも踏まえ、こうした多様性を踏まえた授業運営を今後も続けて参ります。

また、昨年度は短期間で遠隔授業環境の整備を行ったことから、教職員のICTリテラシーにばらつきが大きいとのこと指摘も頂戴しました。このため授業連絡の方法が多岐にわたるなど学修環境に影響を与えている例も寄せられました。教職員向けの勉強会などを通じて、学生の皆さんが学びやすい環境になるよう大学としても努力します。

唾液PCRによるモニタリング調査



前号でもお知らせした「新型コロナウイルス感染症拡大の早期探知のためのモニタリング」を、5月11日から首都圏の各キャンパスで開始いたしました。実施期間は各キャンパスで異なります。東京都・千葉県のカンパスに在学する学生は、所属キャンパスの事務部から「PCR検査案内メール」が送られてきたら、その説明に沿ってスマホアプリ（HELPO）をインストールして受検手続きを進めて下さい。登校状況にもよりますが基本的に全ての学生を対象としています。この検査の趣旨について、亀山学長からの説明動画をYouTubeで配信しております（右上のQRコードからアクセスできます）。また、唾液の採取方法など当日の検査手順も配信していますので併せてご覧ください。

感染対応指針を見直しました

現在も変異株の影響が大きく、東京都内では緊急事態宣言が続いています。こうした中、本学では感染拡大防止の一層の強化を図るため「**学生における新型コロナウイルス感染症の対応指針**」を第6版に更新しました。この見直しでは、不織布マスクの着用（ウレタンや布のマスクは不可）、三密はもろろん一密も避ける、同居者が「かぜ症状」など感染を否定できない場合の対応等を記載しました。また5月11日には東京都知事から学長あてに「**3つの密**」が揃う

場面でなくとも**感染する事例**があることから一層の**注意喚起**を求め、依頼がありました（左）。他県でも共通する内容なので、全学生にメールでお知らせしています。

取組におかれましては、新型コロナウイルス感染症対策に全力で取り組んでいただいていることに対し、改めて感謝申し上げます。取組における感染状況については、増加傾向が続いています。また、感染力の強い変異株の拡大を踏まえ、今までの警戒が必要となってきています。こうした状況の中、「**3つの密**」が揃う場でない状況でも感染する事例が見られることから、課外活動後の集団での飲食を控えるなど、課外活動に付随する様々な場面での感染対策に十分留意するよう、一人ひとりに理解を促すような形で注意喚起をお願いいたします。併せて、緊急事態措置期間中は、オンライン授業の積極的な活用やクラスを分割した授業、大教室の活用等より密を回避し、感染拡大防止につながる取組についてご検討いただいております。取組も、協力を賜いますよう、よろしくお願ひいたします。

2021年5月11日
東京知事
小池百合子